

前橋市大手町
3-1-10

群馬高教組

027-231-2784

ghtu@educas.jp

http://www.ghtu.org/

8/5 対県教委 夏季要請行動

夏季要求書および職場要請書を総務課の高井次長（右）に手渡す水田委員長（左）



2025夏季要請 第一部（管理課・総務課）

8月5日（火）県庁昭和庁舎3階で対県教委夏季要請が行われました。第一部の管理課・総務課要請では県教委から高橋管理課次長以下4名、高井総務課次長以下3名の計7名が参加。高教組は現場・専門部含め12名が参加しました。

冒頭、夏季要求書及び12分会より寄せられた職場要請書が手交され、水田委員長はいさつの中で若手の教職員離れや給特法、教育費無償化に伴う私学との競合、教育DXなど、教育を取り巻く様々な諸課題に触れました。

渋工の八重樫さんを筆頭に7分会の職場から教育条件・施設設備に関する要請があり、最後に神保書記長から残り5分会の要請を訴えました。総務課要請では、産休補が見つからず非常勤対応では一人の常勤分の業務が賄えない教員不足の実態が複数の現場から語られ、生徒情報の共有不足などでトラブルに発展するケースもあると指摘されました。また地公臨制度等に不案内な学生にもよく伝わるようウェブ求人より詳しく丁寧にするよう求めました。このほかスクールネットへの移行では外字対応に不安、教職員対象のBYODも各校任せで分厚いセキュリティポリシーの負担などが話題になりました。



職場の困難な状況を訴える神保書記長

第二部（総務課）

県教委から高井次長を含め3名が出席し、高教組から3名が要請を行いました。

○矢嶋（大泉）：再任用4年目。高齢者の給与が低い。（再任用教員の中には）学年主任、科主任、生徒会チーフなど要職に就いている人も多い。校長経験者は仕事が減るのに平は減らない。エアコン付き教室は高稼働率。エアコンのない製造実習の教室は暑くて使えない。事務室に経緯を聞いても分からない。現場の声を確認してほしい。

○水田（委員長）：再任用制度初期は高齢者に配慮があったが、だんだん消えている。

○総務課：県も同じ。

○澁谷（安総）：再任用3年目。私より年上の人は地公臨。給与の根拠は何なのか。特別支援学校にいた3年間では不本意な人事ばかり。担任も続けたかったが転勤になってしまい、ある生徒はその後退学してしまった。手厚い対応を！スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーが元校長という例もあるが働いていない。生徒の家庭は大変で母親急死のケースでは血のつながりのない父が対応。学校の責任は重い。経験のあるソーシャルワーカーが必要。

○総務課：重視している。資格のある人が必要。ソーシャルワーカーが必要な機関につなげていく役割を負う。

○水田：スクールロイヤーも必要。私の場合、大変な父親は刑務所上がりの人だった。簡単に、形式的に謝っても解決しない。

○総務課：クレイマー対応について現場で研修はあるか。

○矢嶋：うち（大泉）はある。



○春山（渋谷） 非常勤講師の単価を物価高に合わせて大幅に上げてほしい。人事管理を県でまとめてほしい。

○総務課：あとで相談してみます。

○渋谷：やる気になればできるはず。以前人事課は難しいと言った。

○水田：地公臨の赴任旅費の支給を！部活顧問が運転のマイクロバスで伊商の事故も。遠征は絞ることも必要だが、部活をしたい生徒は私立に流れる。部活の意義を確認し残業も減らしたい。BYODでは、持ち込み可と公の物を使ってもよいという矛盾。

○総務課：昨今の事件のこともあるが、結局は対症療法でなく、モラルの維持・向上。やるにはやっているが事件は減らない。性犯罪をする人は大学生の頃からだろう。

○水田：職員の分断化が元凶

○春山：優秀教員の価値観も問題

○総務課：分断化を直したいということか？いろいろ考えてはいるが、問題行動をどう防ぐかが難しい。

○水田：中間管理職が増えれば分断化が進む。

○総務課：「群馬の教員のほとんどは優秀」と教育長は評価している。

○渋谷：その素晴らしい教員が辞めてしまう現実を見るべき。

○総務課：どうしてそうなるのか。

○渋谷：報われない感。

第二部（学校人事課）



県教委から立見次長を始め8名が出席し、高教組から神保書記長始め

4名が要請を行いました。

○坂田（清陵）

非常勤講師のニーズは増えているが待遇が悪化しているのはいかがなものか。なぜ教師が足らないのか？現在の教員定数法が実態に合っていないのではないか。期末・勤勉手当が出るしくみを作るべき。非常勤講師アンケートの結果より、1学期中間考査・期末考査に係る付随業務について、「両方申請していない」は41%もいた。保健体育、音楽、美術の教員が申請していない傾向が強い。この制度が機能していないのが現状だ。県職では経年勤続期間に応じた年休が会計年度任用職員に付与されている。教職の非常勤講師にも実施しなければ不公平だ。病休については、昨年12月「会計年度任用職員の病休を有給」とする人事院勧告が出され、これを受けて県職ではこの4月より「有給」となった。教育職ではなぜできないのか。支給明細書には多くの不備がある。報酬が実績払いと言いつながら、出勤日数や付随業務のコマ数などの記載がないのはおかしい。非常勤講師募集のHPが更新されていない。雇用条件が良くないからなのか。学校都合による付随業務は振替勤務を認めてほしい。

○東宮（高崎）

今年6月に部活指導員の辞令を受けた。部活指導員の配置は64校で、8部活に留まっている。もっと増やしてほしい。現在、弓道部を指導しているが、できれば4月から辞令を出してほしい。そうすれば安全面や高校総体前の指導ができる。そのためには正規職員の内示を早める必要がある。

○岩崎（大間々）

校内における仕事の引継ぎがうまくいっていないと感じている。内示を早くすることで校内人事等引継ぎがうまくいくはず。

○神保（書記長）

校内人事においては、管理職が主任などを任命しづらくなっている。各校の実態も考えて人事配置をしてほしい。学校司書について、今年度は有資格の初任者が採用されている。要請していることを受け止めていただいた。今後も続けてほしい。通信制高校への入学者が増加しているため、1人の教員が担当する生徒数が増え、大きな負担となっている。早急な人員配置をお願いしたい。

第二部（高校教育課）



県教委から桑子次長を始め4名が出席し、高教組から3名が要請を行いました。

【生徒情報管理システム・BYOD等】

○八重樫（渋谷） 業務負担を軽減するための人員配置をお願いしたい。

【百問練乱】

○山口（玉村） システムに問題を合わせてしまう。記号が多くなってしまう。2語だと自動採点ができない。AI機能は追加されるのか。非常勤の先生に覚えてもらうのは厳しい。

○高校教育課：使いづらいのはどのような点か。部分点は使いやすいか？

○山口：使い方次第ではないか。

○萩原（副委員長） 若手が年配教員にすぐく丁寧に教えているが、職場によってはストレスになるケースもある。

【入試】

○萩原：時程について、40分間の実施ではどうか。

○高校教育課：制度を変えたばかりなので難しい。ICTを活用して効率化は図りたいが難しいのも分かっている。

○萩原：入試で自動採点を使う予定はあるか。

○高校教育課：入試ではミスが許されないの自動採点はすぐには導入できない。

【特別支援教育】

○山口：通級指導と日本語指導が両方とも必要な生徒がいる。教員の増員は可能か。または30人学級は実現できるか。

○高校教育課：生徒指導の困難さは理解している。

【修学旅行】

○萩原：沖縄のジャングルアでは、特定のアクティビティは不可だが、基準は変わるか。

○高校教育課：安全性の観点から、スリルを求めるものは許可できない。教育的効果があるのか、などが判断基準。ジャングルアについては実際に問い合わせが多い。

【ICT機器の保守、設定など】

○萩原：業務負担軽減などの実例はあるか。

○高校教育課：FAQ的なものを作りたい。

【保護者・生徒などのトラブル】

○高校教育課：スクールロイヤーを活用してほしい。



「今こそ教職員増を！」文科省前で神保書記長が訴える（7/25）

7.25中央行動



猛暑の文科省前で熱く語る
神保書記長



高教組からは神保書記長（右）、
小笠原書記次長（左）が参加



（小笠原）

7月25日（金）、猛暑の中、「7・25中央行動」に神保書記長と小笠原の2名で参加してきました。酷暑対策を万全に整えていたものの、厳しい暑さに負け、ややバテ気味での行動参加となりました。中央行動は文科省前での各ブロック代表者のスピーチから始まり、現場が直面する課題と改善を求める訴えがなされました。関東ブロックを代表して神保書記長からも「今こそ教職員増が必要だ」と熱い思いが語られました。その後、人事院前での行動を経て、星稜会館で学習決起集会が行われました。例年は猛暑の中を日比谷公園から銀座を通ってアピールウォークを行うのですが、今回は涼しい会場での集会で終了となりました。炎天下での苦行のようなアピールウォークがなくなりホッとしつつも、少し寂しさを感じながら帰路につきました。

「核兵器はいらない！」原水爆禁止世界大会in長崎（8/7～9）

8月7日（木）から9日（土）にかけて原水爆禁止世界大会が長崎で開催されました。今回は高教組の代表として神保が参加してきました。初日の「被爆体験の継承と未来―被ばく80年―長崎のつどい」では、核兵器が使われれば何が起きるのか、被爆者の体験を直に聞くことを通して、一言では語れない大きな衝撃と感慨を覚えました。これまでもテレビや新聞、書籍で被爆者の声を聴いてきたつもりです。しかし、同じ空気を吸っている空間において、しかも戦後の人生における苦しみと、しかも戦後の人生として語られるのを聞く経験はありませんでした。身体的苦痛はもとより、差別による苦しみ、もがき、そして生きることへの執着……。自分がもし被爆者であったなら、この人の立場だったら、生きてこれたのだろうか。そう思わずにはいられませんでした。この日の夕方には全教の教職員が集う交流会に参加。2日目は分科会「ストップ戦争準備・大軍拡、守ろう平和とくらし」に参加しました。ここでは私も発言をさせてもらいました。自衛隊への入隊希望者が少なくなっているなか、さまざまな「宣伝・勧誘」が子たちに及ぶ現状について述べました。3日目は「ナガサキデー集会」でフィナーレ。核兵器はいらない！被爆者の思いを語り継いでいきたい。未来のため、子どもたちのため。改めてそう強く思った原水爆大会でした。（神保）



教育のつどい2025in埼玉（8/17～19）

◎教育のつどい2025in埼玉（教文部長兼レポーター・萩原）
8月17（日）～19（火）の3日間、埼玉のつどいに参加した。一昨年の東京、昨年の京都に続く3年連続参加と同時に、以前の教文部長時代も含めた全国のつどいへの参加累計は10回を数える。レポーター参加は8回目だ。群馬高の参加が絶えないようあと2年はがんばりたいが、バトンタッチは誰にすればよいのか？さておき、初日の全体集会はいつも内容が素晴らしい。オープニングの川口ゾウ列車合唱団も良かったが、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの講演内容は遙に凄い。沖縄戦の人骨収集家、具志堅さんと東日本震災で娘を失った福島の木村さんがつながり、さらには福島の被災はガザ地区の風揚げともつながる。シリアの難民認定における日本政府の対応、そして安田さんご本人のルーツに関わる語りの全てが真実を伝えていた。「不条理のそばを黙って通り過ぎない」ために語り続ける。「身近な差別の放置がより強大な暴力へとつながる」という表現がストリートに突き刺さった。
この3年間はずっと同じ分科会に参加し不登校問題をレポートしてきた。過去2年間は、職場の組織的な対応があまりに空疎で機能しなかった事例を怒りとともにぶつけた。今回は、組織的な対応ができて生徒が学校を去ることになった事例を報告した。4分科会が1つに再編されたA分科会も3年目を迎えたそうだ。今回集まった33本のレポートは校種や内容に偏りがないよう3つの分科会に振り分けられていた。1年目は不登校だけで1つの分科会だったものが徐々に他のテーマとも関わり合うようになってきたと説明があったが、まだ完成形ではないようだ。散らせばそれだけ議論の内容は薄まるが、その分共有層は広がる。不登校問題に関わってきた保護者が前日に比べ減ってしまい残念と思われた私のレポートにも多くの反響が寄せられてありがたかった。そして「先生方のご苦労は痛いほどよく分かる。けれども私達保護者には手の届かない学校エリアでは先生たちがいっぱいともうしか方法がないんです」という保護者のメッセージに心を揺らされた。

